

## 区長メッセージ

### 平成29年度を振り返って

日増しに明るく暖かな日差しとなり、長かった冬から待ちかねていた春の訪れを感じる今日この頃となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。年度末を迎えるにあたって、日頃から区政運営へのご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は御柱祭の年でお休みだった区民大運動会が二年ぶりに開催され、秋晴れの日を多くの区民の皆さんの参加により大きな盛り上がりと共に、各町内の榮譽を掛けた熱戦が繰り広げられました。会場のあちらこちらでは町内の趣向を凝らしたふれあいの場が設けられておりました。

また防災訓練では、地震発生を想定して防災・減災といった視点で、全戸配布された「ささえあいマップ」を機能させ、私たち隣近所のふれあい・ささえあいを基本とした隣組単位の避難や安否確認と減災力テストを行い、万が一災害が発生した時に安全や安心を確保することの検証を行いました。町内会長さんや区会議員、自主防災会役員を対象に、中学生にも参加をしてもらい「避難所運営ゲーム（HUG）」を長野県政出前講座の活用により防災力アップにつながる取り組みも試みました。

幸い大きな災害の被害に遭うこともなく穏やかに過ごせたことは何よりでしたが、こうした安心なときにこそ、日頃からの備えを充実させておくことが必要であると思います。「楽しく・明るく・健康的に暮らす」をキーワードに、さらに安心して暮らせるまちづくりを皆さんで進めていきましょう。

東堀区長 杉村 法夫

区民が活き活きと  
安心して暮らせる  
まちづくり

## 支援センター事業報告

私たち支援センターの役割は「ふれあいのまちづくり」推進を担っています。この一年の活動を振り返って見ます。まず、

- ① 町内ささえあいマップを充実させて、防災に役立つ内容にしてカラー刷りで全戸配布しました。又、災害時、自力で避難行動が困難者に支援者を確保する体制づくりに取り組み、安全安心の街づくりを進めて来ました。
- ② 区行事・町内会行事・各種団体の催しを支援センターだより、柴宮だよりを通し写真を中心に紹介し住みよい東堀区をPRして来ました。新しい防災訓練の狙い、今号は400年以上の歴史ある東堀の歩みを集めて、郷土愛にも触れてみました。
- ③ 高齢化が一層進む中で、一人暮らしお年寄りが町内の機能を果たすための障害を取り除く取り組みも行って来ました。ふれあいのまちづくりが区の重点活動として位置付けて10年が経過しました。この間隣組長・町内会長・各種団体役員経験者は述べ4千人を超えました。この貴重な人的資源を活かして次の10年のまちづくりの検討にも入って行きます

支援センター長 中山 君夫

## なんでも相談広場

毎月：第3水曜日  
時間：9:00-12:00  
場所：柴宮館 201 会議室

電話相談もしています。毎月の回覧「支援センターだより」の案内をご覧ください。

介護・子育て・健康・防災・



## 29年度 町内一行事の実施内容

東堀区ではふれあいまちづくり推進の一環として、各町内の皆様に一年に一度 町内一行事の活動を推奨しております。行事の内容はそれぞれの町内で特徴のある一行事となっているようです。

右のグラフは各町内でどのような行事が町内一行事として行われているかを表したものです。従来の懇親会に加えて、運動会、球技大会の機会に弁当などを用意し親交を深めた町内が多くありました。今年の特徴として、防災訓練で区長より消火訓練を行ってほしい旨がアナウンスされ、新たに消火訓練を行った町内が多くありました。残念ながら雨に依り訓練が実行されない町内もありましたので、実際には更に多くの訓練が行われる予定であったと思われまます。従来、ごく一部の町内で行われていた訓練ですが、改めて防災の意識が高まるきっかけになればと感じます。

一行事は決して大げさなことをお願いするのが目的ではなく、折に触れてご近所のお年寄りや小さなお子様と顔を合わせ、とっさの緊急時にも声をかけ合うことができるきっかけを作ればとの思いからお願いしております。共同で公園などの清掃を行う町内がありますが、老若男女で参加できる企画として良いのではないのでしょうか。是非、皆さんで工夫してみてください。

H29年度 町内一行事の実施内容



## ふれあいのまちづくり推進委員会

◆目的  
区民同士が支えあい安心して暮らせる、災害に強い、健康で生きがいのある、たくましい子が育つ街づくりを目指します。

◆メンバー  
区長・副区長・議長・副議長・区会総務委員長・社会委員長・建設委員長・資産委員長・支援センター委員の15名です。

◆議題（1/30会議）  
・ささえあいマップ作成・活用と今後の進め方  
・町内一行事のまとめ  
・避難行動要支援者の状況報告 現在166名岡谷市へ登録  
・高齢者生活支援について  
・ふれあいのまちづくり行動計画10年の総括と今後の取り組み  
・区未加入世帯の加入について

H29年度 支援センター役員  
センター長 中山君夫  
副センター長 北澤孝次郎  
田中雅子  
委員 大澤 誠、古畑 昭  
小口勝弘、渡辺兼男



ゆっくりと歓談中



真剣に消火訓練



2017.09.03 消火訓練



# 東堀の歴史・文化

東堀区誌からのメッセージ

縄文弥生（紀元前1万年～5百年）榎垣外遺跡は柴宮森を南限に長地保育園地籍を中心に発達した  
 大化年間（645～650年）スクモ塚古墳（現中屋地区）がつくられる  
 養老年間（717～724年）片間町地籍に集落が発達する  
 延暦年間（782～806年）金山東（長地小北側）などの集落が栄える  
 興元年間（1340年）宗良親王（後醍醐天皇第五皇子）東堀にご滞在ご通過と伝える  
 天正8年（1590年）検地で村高804石、この時「東堀」の名が初めて公文書に現れる  
 元和年間（1615年～）東堀の集落「古屋敷（現東部中付近）」から中山道沿線へ移転した

## 東堀村

### 村の戸籍

「宗門御改帳」「東堀村人別帳」として現存する最初のもは寛文5年（1665年）である。キリシタン禁制により行われたが、江戸中期になると戸籍としての役割を果たすようになった。明治4年まで続き、同5年の「壬申戸籍」に引き継がれた。

### 村のしくみ

村は部落共同体あり、行政的にも生活的にも最も小さい単位であり、年貢・課役は村として上納した。水・飼料・草場・薪炭等の調達は全て村の仕事であり、個人は村の中での存在であり、活動も同様であった。部落共同体の中では、村の恩恵なしには生活できなかった。

昭和十六年頃の長地小学校の校庭。ほとんどの人は下駄スケートで滑った。



- 東山田村
- 西山田村
- 東堀村

### 長地村の誕生

明治7年筑摩県から3村の合併指令書が届き、長地村が誕生した。数百年も続いた東堀村は東堀耕地と呼ぶようになった。明治8年の人口は2417人・戸数510であった。



昭和34年頃の長地小学校・東部中学校（合併に伴い長地中学校は33年4月に改名）



昭和24年 区民運動会始まる

## 長地村

- 東山田
- 東町
- 横川
- 中川
- 中屋
- 東堀

## 岡谷市

### 岡谷市との合併

長地村議会は昭和32年3月岡谷市との合併を決議した。下諏訪町への合併を主張した東山田・東町地区は住民投票の結果、33年7月下諏訪町へ分市編入した。

## 柴宮館



明治45年 柴宮館 新築



昭和22年 増改築

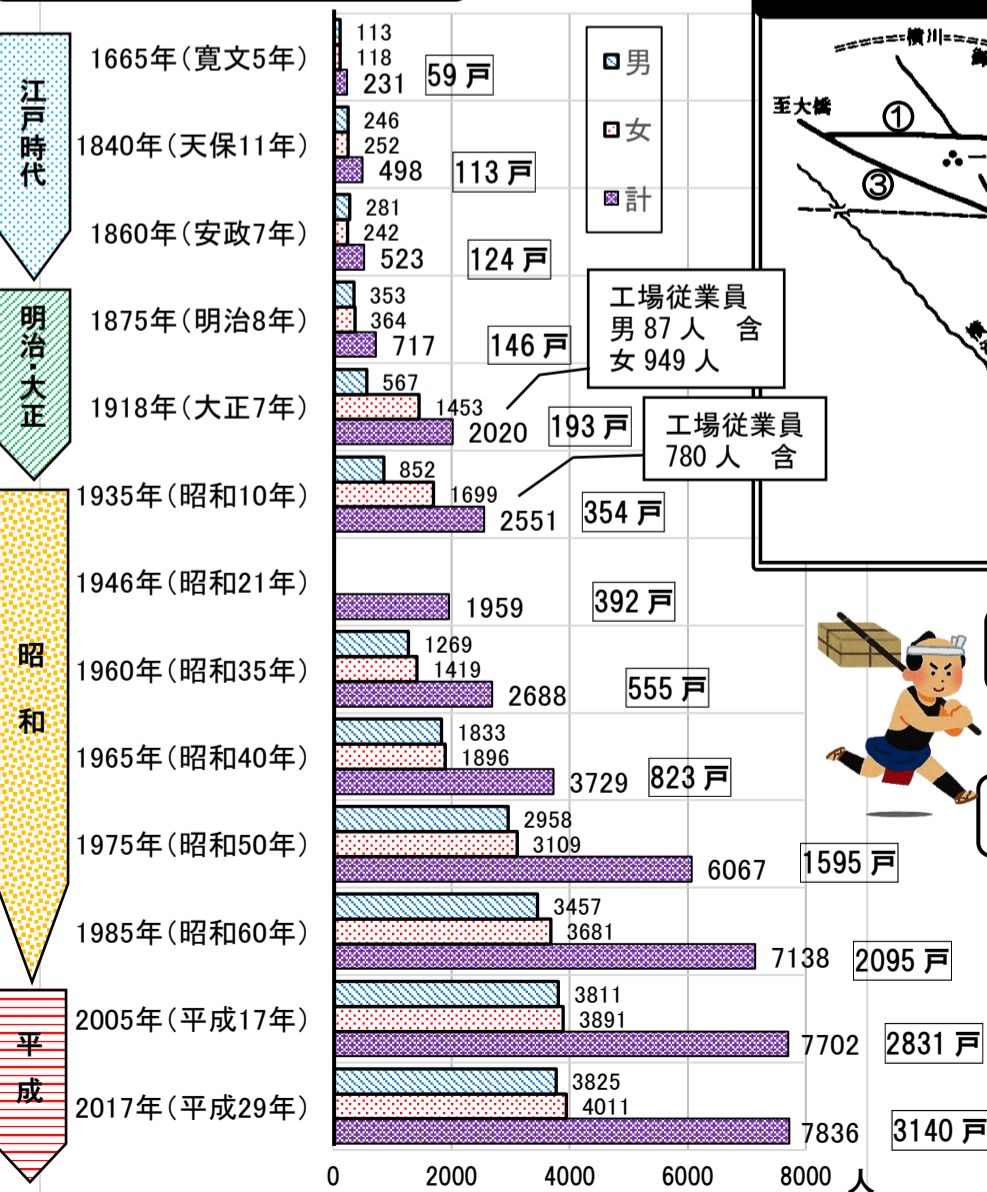


昭和55年 大改築

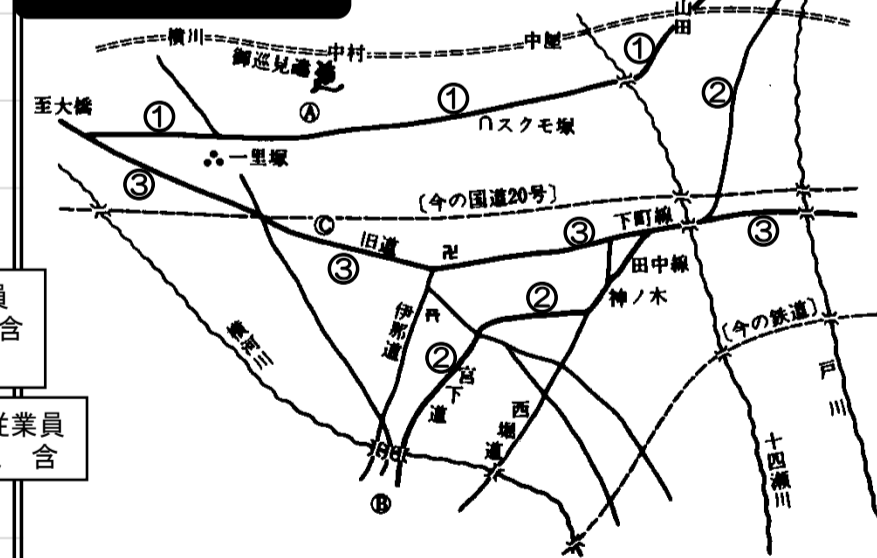
### 第26回尚齒会(昭和29年)

第1回尚齒会は大正2年3月70歳以上41名が参加し柴宮館で開催された。その後2～3年に1度開いたが、昭和18年からは毎年桜満開の4月下旬となり、年々盛会となった。現在は5月下旬に行われている。

## 東堀の人口・戸数推移



## 三つの中山道



③中山道 中町より平福寺方面を撮影した昭和16年元旦の街。昔の車が下ってくる

### ① 古中山道

一番古い中山道で、和田峠を越え落合の辺で砥川を渡り、小田野から東山田-中屋スクモ塚北側-小萩社の南-横川大橋を渡り、今井から塩尻峠に通じていた。この道筋がほぼ東堀村と両山田村との境になっていた。

### ② 初期の中山道

江戸を中心とした5街道の一つに指定された。和田峠から下諏訪宿-社東町-国道南で十四瀬川を渡り-神ノ木-西堀新道小口宅を右折-杉村設備前-東部中横-小井川-小口-岡谷-三沢-小野-木曾へ抜けた。

### ③ 中山道

1614年東堀から今井を経て、塩尻峠を越える道筋に変更された。社東町から国道南で十四瀬川を渡り、東堀いわゆる旧道を経て国道を横切り、自動車教習場北側を通り、今井-塩尻峠-塩尻-洗馬-木曾路へ入った。

新道(国道20号)東堀部分は明治20年開削される